

労働者の安全確保、熱中症対策は企業の義務です。人員・器材の確保など、万全な夏期繁忙対策を！

フェニックス PHOENIX

＜ 発行者 ＞

航空安全推進連絡会議 03-3742-9359

日本乗員組合連絡会議 03-5705-2770

航空労組連絡会 03-3742-3251

http://www.kohkuren.org/

粘り強い交渉で要求前進



混雑する外航出発カウンター。羽田空港

2025 春・夏闘

一方、日本航空では、春闘で示された25年度一時金（夏2カ月、冬2カ月、期末一時金）に基づき、夏期一時金2カ月が

25夏闘 各労組の一時金回答		
労組	一時金	その他回答
ACA	夏冬各2カ月＋期末一時金2.2カ月	
APU	夏冬各2カ月＋期末一時金2.2カ月	
JFU	夏2カ月	乗務関連手当増額
CCU	夏2カ月	サービス見直し（発言）
JLU	夏2カ月	
GHU	夏2カ月	器材の増配備、施設改善等
JAS新	夏2.2カ月	
NAFCO	夏2.5カ月＋0.2カ月＋41600円＋25万円	
EK	25年：年間2カ月（＋プロフィットシェア22週分） 26年：年間2.5カ月 27年：年間2.5カ月	
SQ	一時金年間5カ月	
UA	一時金年間6カ月	
NW	一時金年間5カ月	

ACA（全日空乗組）・APU（ANA乗組）の期末一時金は業績目標達成時。GHU＝JGS労組、JGS大阪労組、JGS九州労組。

27年2・5カ月とする。3

全日空乗組（ACA）では、MF（B777とB787の2機種乗務）問題の交渉が続いており、今後も協議が続けられます。日航乗組（JFU）で、昨年末から継続して取り組まれてきた賃金20%アップ（年収換算）

春闘からの継続要求により、手当の引き上げや職場環境の改善にも一定の前進が図られました。

状況 賃上げと職場要求の状況 春闘からの継続要求により、手当の引き上げや職場環境の改善にも一定の前進が図られました。

■一時金の回答状況 全日空では、25年度の一時金は、春闘で「夏・冬各2カ月」として確定。その後、2025年度業績目標を踏まえ、期末一時金を水準「2・2カ月」業績目標達成時に30万円が支給される予定です。ANAグループのグラハン各社（空運連合会）でも、同様に「夏・冬各2・1カ月」期末一時金2・2カ月（ANA業績目標達成十個社業績）が示されています。

■一時金の回答状況 全日空では、25年度の一時金は、春闘で「夏・冬各2カ月」として確定。その後、2025年度業績目標を踏まえ、期末一時金を水準「2・2カ月」業績目標達成時に30万円が支給される予定です。ANAグループのグラハン各社（空運連合会）でも、同様に「夏・冬各2・1カ月」期末一時金2・2カ月（ANA業績目標達成十個社業績）が示されています。

一時金引き上げや複数年協定 手当引き上げ目標前進 JFU

生活用品の相次ぐ値上げにより、実質賃金は4カ月連続のマイナスとなっています。こうした状況の中で迎えた25夏闘、夏期一時金や賃金の引き上げ、職場要求はこれまで前進したのか。その成果と課題を報告します。

回答されました。JGSグループの各労組にもJAL同様の回答が示されました。一方、JAS新労組（会社名JASCO）では2・2カ月、NAFCO労組では2・7カ月＋29万1600円（グループ内企業評価一時金25万円含む）と、昨年を上回る回答を勝ち取りました。外航では、タイ国際航空（TG）が夏期一時金3カ月、ノースウエスト航空（NW）が夏期一時金5カ月の回答。複数年協定を締結しているユナイテッド航空（UAL）では、25年度の年間一時金6カ月、シンガポール航空（SQ）は同5カ月の回答が確定しています。

年協定を締結しました。EKでは、好業績により毎年プロフィットシェア（利益還元）が支給されており、2025年には22週分（約5カ月）が支給されました。26年については「最低でも12週分支給」とのCEOメッセージが発信されています。また、シンガポール航空（SQ）でも、ボーナス7・5カ月分を支給と報道されています。

迎える夏期旅行シーズン 求められる生産体制の充実

■今後の課題と展望 賃金の引き上げや労働環境の整備は、人材流出を防ぐだけでなく、人材確保や定着につながる重要な課題です。今夏闘では、一時金の引き上げは一部にとどまる一方、粘り強い交渉により職場要求の前進につながる成果がありました。特に、JFUにおける乗務関連手当の引き上げは、獲得目標には到達していないものの、工夫を重ねた取り組みが多く、教訓を残し、さらなる高みに向けた足がかりになることは間違いないと見られます。 日本政府観光局（JNTO）によると、5月の訪日外国人旅行者数は369万3300人と、5

■主な記事から■

- ▶ グラハンアンケートから見えた余裕のない職場の労働環境。疲労・腰痛・ストレス—安全や健康、人員に不安や課題 …… [2面]
- ▶ 航空連、グラハン適正取引ガイドライン策定へ追加提言 …… [2面]
- ▶ JCU、合意内容踏まえANAと和解。CAの休憩確保は業界全体の課題 …… [3面]
- ▶ 航空整備士の人材確保・活用—魅力高める施策必要 …… [3面]
- ▶ 日航機墜落事故から40年、事故の記憶を風化させない …… [4面]
- ▶ ITF、全米サービス労組委員長拘束に抗議声明 …… [4面]

労働相談は航空連に 03-3742-3251 e-mail/honbu@kohkuren.org

誘導路

権力は、うまく使えば社会の秩序を保つための道具になりますが、使い方を誤れば、人々の自由や尊厳を容易に踏みつける凶器にも。だからこそ、権力が一つの機関や人物に集中しないようにする「権力分立」という仕組みが近代国家の基本原則として築かれてきました。 ●よく知られた三権分立（立法・行政・司法）はその代表例。それぞれが独立し、互いを監視・制御し合うことで、権力の暴走を防ぐ。いわゆる「チェックアンドバランス」の考え方は、これは企業や組織、地域行政においても応用されるべき原理です。●ところが、近年のいくつかの事件は、このバランスが崩れたときに、どれほど危うい状況が生まれるかを私たちに突き付けています。兵庫県知事をめぐる県幹部の告発文問題や、大川原化工機事件に見られる杜撰な捜査と冤罪。「権力を監視する目」が鈍ったときに起きた深刻な事例です。●そしてもう一つ、忘れてならないのが「言論の自由」の重要性です。「あらゆる権利の中でも言論の自由こそが、暴君にとつての恐怖である。彼らはまずこの権利を奪おうとする。その力をよく知っているからだ」。 今後も、職場の安全を守り、人員確保と職場環境の改善に粘り強く取り組みたいと願っています。

疲労・腰痛・ストレスが三大症状

2025グランドハンドリング職場の安全・健康アンケート結果

余裕のない職場の労働環境

安全や健康・人員に不安や課題

航空運送グランドハンドリング労組連絡会（グラハン連）は4月に、「2025グランドハンドリング職場の安全・健康アンケート」調査を実施し

ました。国際線を中心に取扱い便数が増加し、採用増の一方で採用後3年以下が3割を占め、定着と育成が課題になるなか、依然として安全や人員不足など不安や課題が山積している職場実態にあることが裏付けられました。アンケート結果の特徴を報告します。

「航空機損傷事故」14.2%となっています。再発防止策の有効性については、「有効だと思われる」36.6（31.9%）に対し、「思わない」30.1%（36%）、「わからない」33.3%（32.1%）でした。

人員が適正に配置されているかについて、「配置されている」8.8%（9.8%）に対し「不足している」81.6%（82.4%）と、圧倒的多数は人員が不足していると感じています。

健康状態では、「良好」37.8%（35%）に対し「自覚症状あり」28.7%（26.8%）、「不安を感じる」33.5%（38.1%）でした。「自覚症状あり」と「不安を感じる」を合わせると62.2%（61.8%）となり、健康面に不安を感じている層が8割を超えています。



猛暑のなかでのグラハン作業

■職場の安全

この1年間の職場の安全を聞いたところ、「安全が向上した」22%（20%）に対し「安全が低下した」49%（52.6%）、「わからない」28.9%（27.1%）でした。前年に比べ「安全が向上した」は微増し、「安全が低下した」は微減となりました。

■健康と睡眠

健康状態では、「良好」37.8%（35%）に対し「自覚症状あり」28.7%（26.8%）、「不安を感じる」33.5%（38.1%）でした。「自覚症状あり」と「不安を感じる」を合わせると62.2%（61.8%）となり、健康面に不安を感じている層が8割を超えています。

■職場でのハラスメント

職場でのハラスメントと思われる言動や行為を受けたことがあるかを聞いたところ、「受けたことがある」17.6%（見聞きしたことがある）37.1%（45.1%）、「ない」45.3%（37.7%）と回答。事故事例では車

■まとめ

今回のアンケート結果から、職場の安全や健康状態、人員体制に対する現場の不安や課題が依然として強い状況が明らかになりました。安全意識はやや改善傾向を示しましたが、約半数は「安全が低下した」と回答。事故事例では車

より良いグラハン体制の構築に向け

航空連 適正取引 ガイドライン 追加提言を提出



東京霞が関の国土交通省

国土交通省は、航空機の運航に不可欠な空港グランドハンドリング事業における取引の適正化を目的に、「空港グランドハンドリング事業における適正取引等推進のためのガイドライン策定に向けたワーキンググループ（WG）」を設置し、ガイドライン策定に向けた準備を進めています。こ

れまでに2回のWGが開催されました。航空連は4月15日に、ガイドライン策定に向けた基本的な考え方をまとめた提言を国土交通省に提出していましたが、6月16日に同省航空局を訪問

し、新たに追加提言を提出しました。追加提言は、①受委託契約に盛り込むべき遵守事項、②安全教育の共通化と安全担当者の任命、③疲労管理プログラムの確立、④共通したグランドハンドリングマニュアルの作成、⑤技能資格とトレーニング、⑥GSSE（地上器材）の管理、⑦外国人労働者に関する対応、⑧標準化や共通されたデータの管理と監視の8項目です。

また、WGでは、受託側と委託側双方のヒヤリングを実施しています。大手航空会社の役員が、大手航空会社からのヒヤリングに含まれていることから、利益相反が生じる懸念があります。このため、受託側からのヒヤリングについては、より幅広い事業者からのヒヤリングを行うことを提起しました。

追加提言の場において、航空連は「提言の内容は幅広いものになっていくが、より良いグランドハンドリング体制を構築するために必要と考えている。ガイドライン策定にあたり、ぜひ検討してほしい」と要望しました。

航空連は、安全で高品質なグランドハンドリングの実現に向け、ガイドラインの実効性を高めるため、今後も取り組みを継続していきます。

国土交通省航空局 WG各委員と共有

<成田地区限定>

無料法律相談のご案内

日時 8月2日14:00~16:00
場所 成田地連事務所（東ビル3階301号）
千葉県富里市日吉倉223-1

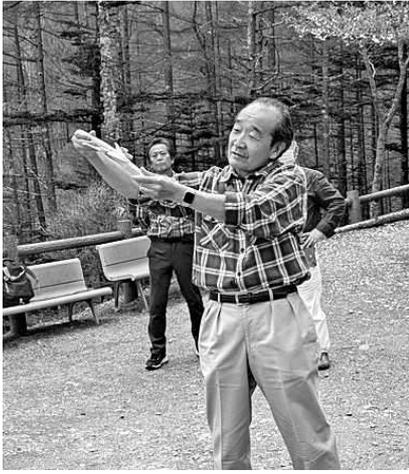
申し込み方法：前日のお昼までにEメールにてお申し込みください

Email: nrt-chiren@kohkuren.org
場所は こちら <http://yahoo.jp/7Lk-Ns>

会社での出来事や私生活でのトラブルなどにお悩みの方はお気軽にご相談ください。弁護士が直接お話を伺います。以上

慰霊登山 日航機墜落事故から40年 事故の記憶を風化させない

航空安全推進連絡会議 (航空安全会議) では、事故の記憶を風化させない取り組みとして、1985年8月に発生した日航機墜落事故の現場である群馬県上野村の慰霊碑を訪れ、関係者から当時のお話を伺う機会を設けており、当り前のように享受している航空の



墜落時の様子を説明する芦沢氏

安全について、皆さまと一緒に考える時間としていきたいと思います。今年、御巣鷹山慰霊登山は、ゴールデンウィーク明けの5月8日、五月晴れのもとで無事に実施されました。今回は、その模様を簡単に紹介いたします。

田窪港を出発し、池袋駅を経由して現地へと向かいました。バスの中では、事故当時(日本航空)の副操縦士として乗務してあり、現在も別会社で現役機長として活躍されている芦澤氏より、これまでの経緯について詳細なご説明をいただきました。参加者は、事故当時の状況だけでなく、今も燃っている様々な課題について深く知ることができました。また、当時のドキュメンタリー映像の視聴もあり、事故を知らない20・30代の参加者にも理解しやすい内容となりました。

「昇魂の碑」では、芦澤氏から事故発生時の様子を伺い、参加者一同で当時の出来事を追体験しました。その後、「慰霊の園」へと移動しました。ここは毎年、記念式典が行われる場所であり、身元不明の遺骨が納骨されている場所でもあります。こうして、御巣鷹山での慰霊登山はあつという間に終了しましたが、特に今回初めて訪れた参加者にとって、「航空安全とは何か?」を深く考える貴重なきっかけとなりました。

「航空安全とは何か」考える

ITF、全米サービス組合委員長拘束に抗議声明

移民労働者の支援活動中に暴行受け拘束

米国でトランプ政権による移民排斥政策が進む中、ITF(国際運輸労働連)加盟組合である「全米サービス従業員全国組合(SEIU)」のロサンゼルス地域組織のデビッド・ウエルタ委員長が、移民労働者の支援活動中にICE(米国移民・関税捜査局)職員によって行われ、暴行を受け、負傷・拘束されました。これを認め、ITFは6月9日に声明を発表し、強く抗議しました。声明は次の通りです。

国際運輸労働(ITF)と700以上の交通運輸労働者は、ロサンゼルスでICE職員によって行われ、暴行を受け、負傷・拘束されました。これは、移民労働者の権利を侵害する暴力的な襲撃および拘束を非難します。ウエルタ氏は、世界中の組合指導者が日々行っていること、つまり正義を尊重し、労働者の権利を擁護することを求め、SEIUを非難します。

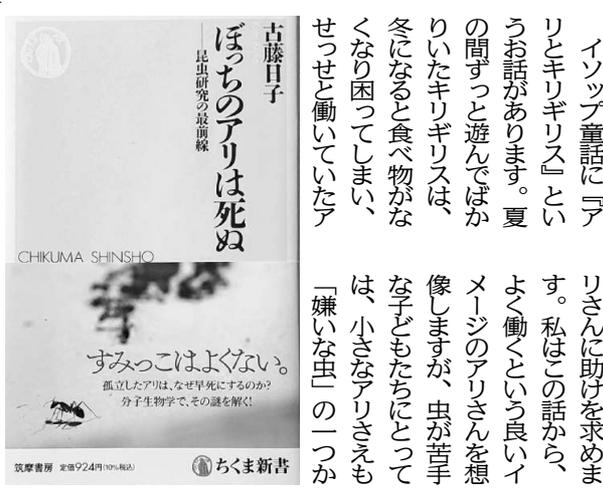


「この恥すべき攻撃行為は、デビッド・ウエルタ氏だけでなく、声を上げるすべての労働者に対する脅威です」とITFのパティ・クラムリン会長は述べています。「これはより広範で危険な傾向の一端であり、移民政策の執行を武器にして、最も周縁化された人々や、不正義に異議を唱える者たちの声を封じ込めようとするものです。私たちは、平和的な抗議と集会に対する暴力的な弾圧と強権的な対応を非難します。

孤立したアリは、なぜ早死にするのか? その謎を解く

ぼっちのアリは死ぬ

古藤 日子 著



「孤独なアリは、なぜ早死にするのか?」分子生物学で、その謎を解く。孤立したアリは、なぜ早死にするのか? 分子生物学で、その謎を解く。孤独なアリは、なぜ早死にするのか? 分子生物学で、その謎を解く。

「孤独なアリは、なぜ早死にするのか?」分子生物学で、その謎を解く。孤立したアリは、なぜ早死にするのか? 分子生物学で、その謎を解く。孤独なアリは、なぜ早死にするのか? 分子生物学で、その謎を解く。

けいぞ

長年農業に携わっている知人から、米の価格高騰や供給不足について話を聞く機会がありました。その知人によると、米不足はすでに2022年の夏ごろから始まっていると、ITFのステイブ・ロットン書記長は述べます。「移民労働者を擁護したとして彼を暴行し、拘束する行為は、労働運動全体に対する攻撃です。私たちはSEIUと共に立ち上がり、正義を求めます。」ITFは、SEIUおよび移民労働者の権利を擁護するすべての人々と、今後連携し共に闘っていきます。

「この恥すべき攻撃行為は、デビッド・ウエルタ氏だけでなく、声を上げるすべての労働者に対する脅威です」とITFのパティ・クラムリン会長は述べています。「これはより広範で危険な傾向の一端であり、移民政策の執行を武器にして、最も周縁化された人々や、不正義に異議を唱える者たちの声を封じ込めようとするものです。私たちは、平和的な抗議と集会に対する暴力的な弾圧と強権的な対応を非難します。」ITFは、SEIUおよび移民労働者の権利を擁護するすべての人々と、今後連携し共に闘っていきます。